

山科教会ニュース

2025年9月 第415号

**神は、その独い子をお与えになったほどに、世を愛された。
独い子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。**

【ヨハネ3:16】

シスター テッシー・ジョージ

8月のトピックス

平和旬間行事

8月6日から15日までは、日本カトリック平和旬間でした。

1981年、当時の教皇ヨハネ・パウロ二世は「平和の使者」として日本を訪問し、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われ、日本国内外に平和のメッセージを発信しました。

日本のカトリック教会は、その翌年(1982年)、もっとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した8月6日から15日までの10日間を、「日本カトリック平和旬間」と決めました。

●比叡山宗教サミット参加

8月4日(月)、「比叡山宗教サミット38周年『世界平和祈りの集い』」が行われ、山科教会からも2名の方が代表として参加されました。

1986年、当時の教皇ヨハネ・パウロ二世の呼び掛けで世界の宗教指導者がイタリアのアッシジに集まり世界平和を祈りました。そこに参加した、当時の山田恵諦(えたい)天台座主が集いの継承を提言し、翌1987年から「比叡山宗教サミット」として続けられています。

祈りに先立ち行われた式典では、昨年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の代表委員、田中熙巳(てるみ)氏の講演を聞きました。

氏は「私どもは核兵器で国の安全を保つことは絶対にできないと確信しています」と訴え、核兵器を地上からなくすためには、「既に使われた2発の核兵器の結果を、人間らしい心で受け止めてもらうほかはありません」と指摘、「一人一人がどういう形で亡くなっていったのか。目撃したり体験した人たちが事実を伝えること、それが最大にして唯一の方法だろう」と述べられました。

今後、核戦争を防ぐためには、若い人々の理解と努力が必要だと田中氏は話し、そのために大切なのは、「幼い時から人を愛し、平和を愛する心を育てていくことではないか」と問い掛け、特に人の心の安寧を願い育む宗教者の働きに期待を寄せられました。《カトリックジャパンニュースから一部引用》

講演のあと「祈りの集い」が行われ、諸宗派の代表者と参加者全員が起立し、「平和の鐘」とともに世界平和を願って黙とうを捧げました。

カトリックからは駐日教皇庁大使フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教様、大塚司教様が参加、式典後に、会場に来られていた柳本神父様も一緒に、写真を撮らせていただきました。



****参加者のコメント****

平和の式典では、日本原水爆被害者団体協議会代表委員の田中氏から、講演「核兵器も戦争もない人間社会を」がありました。式典の後に、屋外で、平和の祈りがあり、宗教は違いますが、参加者全員、平和への思いが一つになりました。

※講演を含む「平和の式典」と、「平和の祈り」の動画は、「比叡山宗教サミット」のウェブサイトでご覧になれます。

●映画鑑賞と分かち合い

8月10日(日)、主日ミサ後に映画『旅するローマ教皇』を鑑賞、分かち合いを行いました。

この作品は、ドキュメンタリーの名匠、ジャンフランコ・ロージ監督によるもので、2013年の就任以来9年間で53か国を訪問しているローマ教皇フランシスコ、常に旅を続け地球を1周している教皇に魅了され手掛けたドキュメンタリー映画と、紹介されています(2022年作品)。

「旅とは知的で精神的な修行だ」と語る教皇フランシスコ、世界各国へ足を運び、笑顔で手を振るだけでなく、市井の人々と触れ合い、握手をし、直接話を聞く。そして、夢見ることの大切さを伝える姿に、心を揺さぶられた方も多かったのではないのでしょうか。



●生きたロザリオ

8月15日(金)、『聖母マリアの被昇天』のミサ後、生きたロザリオを行いました。今年は、着席したままカードを回し、ロザリオの祈りを唱える形で行いました。



「被昇天の聖母」を教会名にいただく山科教会にとって大切な日であり、平和旬間を締めくくるこの日に、厳かな雰囲気の中 祈りを捧げることができました。

『評議会』からのお知らせ

＜洛東ブロック司牧チームからのお知らせ＞

☆信徒養成講座再開

夏休みで休講していました信徒養成講座は、9月から通常通り開講いたします。

『聖書を学ぶ会』(ナン神父様ご指導)は火曜日、『レクチオ・ディヴィナ』(ソ神父様ご指導)は金曜日に、それぞれ週日ミサ後に行います。

☆シスター テッシーが復帰されました

7月26日からお休みされていたシスターテッシーが、9月から司牧活動に復帰されました。早速、今月の『みことば』をいただきました。

＜役員会、評議会からのお知らせ＞

☆敬老の集い

9月14日(日)、「祖父母と高齢者のための世界祈願日」に、「敬老の集い」を行います。

75歳以上の信徒の方に、ミサで祝福を行い、ミサ後にお祝いの茶話会を開催いたしますので、対象の方はご予定ください。

☆四日市教会巡礼

2025年聖年にあたり、山科教会ではカトリック四日市教会への巡礼を行います。

この巡礼には、ソ神父様にご同行いただき、四日市教会でミサをあげていただく予定です。

開催日は11月15日(土)で、参加費は大人4,500円、小人2,000円(高校生以下)です。申し込みの締切りは済んでいます。定員に若干の余裕があります。

25年に一度の『聖年』にあたり、ご都合の許す方は是非ご参加ください。

★ 山科教会からの「お知らせ」は、毎週日曜日に更新されます。聖堂内のボードに掲示すると共に聖堂後方のテーブルにも置いてありますのでお持ち帰りください。

最新の情報は山科教会ホームページ(<http://www.cyamach.sakura.ne.jp>)をご確認ください。

京都司教区のホームページ(<https://kyotodiocese.wixsite.com/website-1>)もご参照ください。

2025年9月の予定

日	曜日	教会暦	行事予定	※都合により日程及び時間の変更もあります
1	月			
2	火		週日ミサ 9:30 ナン神父様	聖書を学ぶ会 ミサ後
3	水			
4	木			
5	金		週日ミサ 9:30 ソ神父様	レクチオ・ディヴィナ ミサ後
6	土			
7	日	年間第23主日	主日ミサ 9:00 ソ神父様	全員清掃、日曜学校 ミサ後
8	月			
9	火		週日ミサ 9:30 ナン神父様	聖書を学ぶ会 ミサ後
10	水			
11	木			
12	金		週日ミサ 9:30 ソ神父様	レクチオ・ディヴィナ ミサ後
13	土			
14	日	十字架称賛	祝日ミサ 9:00 一場神父様	敬老の集い、日曜学校 ミサ後
15	月			
16	火		週日ミサ 9:30 ナン神父様	聖書を学ぶ会 ミサ後
17	水			
18	木			
19	金		週日ミサ ありません	レクチオ・ディヴィナ 休みます
20	土			
21	日	年間第25主日	主日ミサ 9:00 一場神父様	日曜学校 ミサ後
22	月			
23	火		週日ミサ 9:30 ナン神父様	聖書を学ぶ会 ミサ後
24	水			
25	木			
26	金		週日ミサ 9:30 ソ神父様	レクチオ・ディヴィナ ミサ後
27	土			役員会 16:30、評議会 18:00
28	日	年間第26主日	主日ミサ 9:00 ナン神父様	日曜学校 ミサ後
29	月			
30	火		週日ミサ 9:30 ナン神父様	聖書を学ぶ会 ミサ後

◆ミサ開式中は、中央の通路には立ち入らないでください(朗読、奉納、聖体拝領時を除く)。

◆主日ミサ終了後、5分間「聖歌練習」を行います。

すべてのいのちを守るための月間

前教皇フランシスコは、2019年に「すべてのいのちを守るため」をテーマとして来日し、多くのメッセージを残してくださいました。これにこたえ、実的な行動を呼び掛けるために制定されたのが、この月間です。

すべての人が手を取り合わなければ、すべてのいのちを守ることができません。ですから、エキュメニカルな視点も諸宗教との協力も、ともに不可欠なのです。《カトリック教会情報ハンドブックより》
※エキュメニカルとは、主にキリスト教の諸教派が相互理解を深め、協力し、最終的には一致を目指す運動を指す言葉です。

発行責任者

河原町・伏見・山科・桃山・北白川
共同宣教司牧洛東ブロック司牧チーム
編集：カトリック山科教会 広報部
住所：〒607-8415
京都市山科区御陵中筋町3
TEL：075-581-0719
FAX：075-581-0760